

新しい生活様式における

地域スポーツ振興組織の在り方への提案

～おおたスポーツコミッションの取り組み～

ースポーツをテーマにした地域コミュニティの再構築ー

NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット 理事長
(一社) 全国スポーツクラブコミッション 理事
(一社) 東京スポーツクラブコミッション 会長
(一社) おおたスポーツコミッション 理事長

桑田 健秀

スポーツ界のテーマ

- 競技力の向上と競技普及での国際競争力の強化
(2021年**東京オリンピック**開催)
- 公益資本主義経済下での地域スポーツビジネスインフラ構築で基本的な運営構造の改革
(東京**五輪後のスポーツ環境**を見据えて)
- 地域の総合力の一つとしてのスポーツの価値観作りと地域への還元および持続可能な地域社会作りへの貢献
(地域の**スポーティンフラ**としての広域連携ネットワークの構築)

Withコロナ・Postコロナ/新しい生活様式を踏まえて

1. 東京五輪後の地域スポーツレガシー

- ①地域でのスポーツ資源を発掘し、繋ぐ連携ネットワーク(コーディネート)作り
- ②地域スポーツのソフトインフラ(公益財)の構築によるスポーツ環境づくり
- ③持続性(SDGs)のあるスポーツでの街づくり、コミュニティづくり
- ④有効的・効率的な情報流通と人材交流システム作り(人材育成含む)
- ⑤地域スポーツが地域の産業として雇用できるシステム作り

2. 地域スポーツとして

- ①スポーツを軸とした地域社会の問題解決型プラットフォーム(行政とパートナーシップ)
- ②テーマ型コミュニティの充実と地縁型コミュニティとの融合で街づくり
- ③自己財源確保できる社会貢献事業体化(ex.スポーツコミッション)
- ④競技スポーツ(プロ・アマ)のサポーターとしての連携協働システムづくり
- ⑤トップアスリートのセンカンドキャリアとしての地域受け皿づくり
- ⑥地域スポーツの産業化・事業化で安定雇用(指導者等)できる体制づくり
- ⑦超高齢化社会における元気高齢者作りと社会活動参画の受け皿作り
- ⑧地域企業や商店街等けん引するスポーツ・産業・文化振興の新たな複合拠点

※地域スポーツの社会的効果を第一に、経済的効果を付加する。画一的なものではなく、地域特性を十分に生かした方法で、地域独自に東京五輪後に向け構築する

総合型スポーツクラブとしては！！

I.我がクラブは「運営」か「経営」か、どちらを目指すのか。

設立の原点は何だったのかの再確認が今必要では？

II.目標例

- A. 現状のまま運営が出来れば良い
- B. せめて運営スタッフの交通費、日当を支弁したい
- C. 指導者に相当の謝金を支弁したい
- D. 専任事務局員の給与を支弁したい
- E. クラブ事務所を構え、専任事務局員、指導者に給与を支弁したい
- F. 民間企業と同じように社会貢献事業体として経営したい

※全てのクラブが一律での議論ではなく、各クラブの状況や環境に応じて目標を設定し、

階層別エリアネットワークの構築とそのリーダークラブの育成が今後必要であると考える！！

特に、上記C・D・E・Fを目指すクラブは

III.ボランティア、補助金だよりの運営からの脱却・自立(事業化)への挑戦

- A. マネージメントの強化
- B. 財源確保、人財確保

事業化への挑戦

1. 基本のスポーツ教室のソフト充実で参加費徴収
2. 指定管理取得や行政イベント事業の受託での安定財源確保
3. 補助金・助成金の効率的獲得と利用
4. **民間企業との事業連携** (1クラブ単体での対応は限界)
民間施設運営、健康経営プログラムの提供、企業運動会
プロモーションやマーケティングのサポート
5. 地域フィットネスクラブとの連携協働 (指導者派遣)
6. 体育館、大ホール向け高天井用LED、柔道タタミ
(高津総合体育館、荒川区総合体育館)
7. 各クラブの指導者、経営者のコンサル
8. 他競技団体 (アマ、プロ) との連携協働
9. 観光協会や商工会、商店街連合会等との連携協働
10. 地区体育協会やスポーツ推進員他地元関係団体との連携

クラブ間ネットワークの今後のテーマ

各県、各市区町村での特性を生かした**組織再編強化**が必要

1. **事業体**としての中間支援組織の組織強化
2. 会議体としての連絡協議会・広域センターと事業体との連携
3. 地元経済界等他団体との強固なネットワークづくり
4. 連絡協議会等ネットワークの法人化
5. スポーツコミッション等の設立

— 第二期スポーツ基本計画における地域スポーツ組織化のポイント —

～全国・東京都・大田区事例～

—現状—

—計画本文—

—総合型あり方提言—

—計画本文—

<質的充実>

総合型スポーツクラブ

<特定テーマ・
エリアネットワーク>

<地域活性化>

日本体育協会

全国SC
常任幹事会

都道府県SC
連絡協議会

市区町村SC

<業務委託>

(一社) 全国
スポーツクラブ
ミッション
2016.8設立

(一社) 東京
スポーツクラブ
ミッション
2017.9改変

(一社) おおた
スポーツ
ミッション
2017.12設立

都道府県総合型
クラブネットワーク (仮)

<登録・認証クラブ>

地域スポーツ
ミッション

<170のミッションの創設>

スポーツツーリズム

地域行政
教育委員会
地区体協
広域センター

^
業務委託
v

—地域の特色を生かした地域のスポーツ財産を繋ぐ事業体組織作り—

<地区体協・スポーツ推進委員・日レク・日クラブ・障がい者・地域包括・文化・産業>
情報共有プラットフォームで地域スポーツの総合的マネジメント



一般社団法人 おおたスポーツコミッション 事業概要書

2021年8月



1. はじめに ～おおたスポーツコミッション設立にあたり～

東京五輪での日本選手団の活躍は、閉塞した社会において夢と勇気と希望を与え、スポーツの必要性和スポーツがもたらす効果は国民一人ひとりに深く刻まれました。

国のスポーツ基本計画の見直しに合わせて大田区でも「新スポーツ健康ゾーン」含め新たなスポーツ推進計画を策定中であり、また、ブラジル代表チームの事前合宿も決定し、まさに2020東京五輪に向けスタートをしております。

その中で、地域スポーツを支えている大田区体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、障害者スポーツ団体、地域スポーツクラブなど地域の各スポーツ団体が地域社会に果たすべき役割は、連携協働することで増幅されスポーツの振興にとどまらず、大田区のまちづくり「地域力」向上にとって今後ますます期待が大きくなるものと予測されます。

区内各スポーツ団体や運動施設が有機的・機能的に連携協働することで、大田区のスポーツ推進事業のさらなる発展とスポーツによる地域力の強化を「おおた未来プラン10年」・「スポーツ推進計画」に基づき展開することが、区民へのスポーツの普及に繋がるだけでなく、スポーツ健康都市おおた」さらには、スポーツを「国際都市おおた」の観光資源とし、地元企業と連携することによる地域経済への好循環の創出、地域包括ケアシステムや地域医療との連携で医療費の削減、区民はもとより地元企業における健康経営や働き方改革を含めた従業員の健康維持増進での生産性向上、元気高齢者づくりなど新しい地域課題に対しても大きな貢献ができるはずです。

スポーツが秘める可能性を最大限に引き出し、**大田区に点在するスポーツ資源**の機能を高め、官民挙げてそれらを**コーディネート（繋げる・リエゾン）**する持続可能（SDGs）なプラットフォームとして「おおたスポーツコミッション」（OSC）を今ここに提案いたします。

2. 2020東京オリパラ後のスポーツレガシー

1. 東京五輪後の地域スポーツレガシー

- ①地域でのスポーツ資源を発掘し、繋ぐ連携ネットワーク(コーディネート)作り
- ②地域スポーツのソフトインフラ(公益財)の構築によるスポーツ環境づくり
- ③持続性(SDGs)のあるスポーツでの街づくり、コミュニティづくり
- ④有効的・効率的な情報流通と人材交流システム作り(人材育成含む)
- ⑤地域スポーツが地域の産業として雇用できるシステム作り

2. 地域スポーツとして

- ①スポーツを軸とした地域社会の問題解決型プラットフォーム(行政とパートナーシップ)
- ②テーマ型コミュニティの充実と地縁型コミュニティの融合で街づくり
- ③自己財源確保できる社会貢献事業体化(ex.スポーツコミッション)
- ④競技スポーツ(プロ・アマ)のサポーターとしての連携協働システムづくり
- ⑤トップアスリートのセンカンドキャリアとしての地域受け皿づくり
- ⑥地域スポーツの産業化・事業化で安定雇用(指導者等)できる体制づくり
- ⑦超高齢化社会における元気高齢者作りと社会活動参画の受け皿作り
- ⑧地域企業や商店街等けん引するスポーツ・産業・文化振興の新たな複合拠点

※地域スポーツの社会的効果を第一に、経済的効果を付加する。画一的なものではなく、地域特性を十分に生かした方法で、地域独自に東京五輪後に向け構築する

3. 理念&存在意義

理 念

大田区基本構想10年プランやスポーツ推進計画に基づきスポーツの普及振興に関する事業を行うことにより、区のスポーツ人口（する、みる、支える）を増やし、現存する地域のスポーツ財産を中心に関係機関を繋ぎ連携することによるスポーツの力で地域を活性化させるとともに、区民の健康で文化的な社会生活の基盤づくりへの貢献と大田区のスポーツビジネス（社会貢献事業）の発展に寄与し、全国にその効果を発信することを目指します。

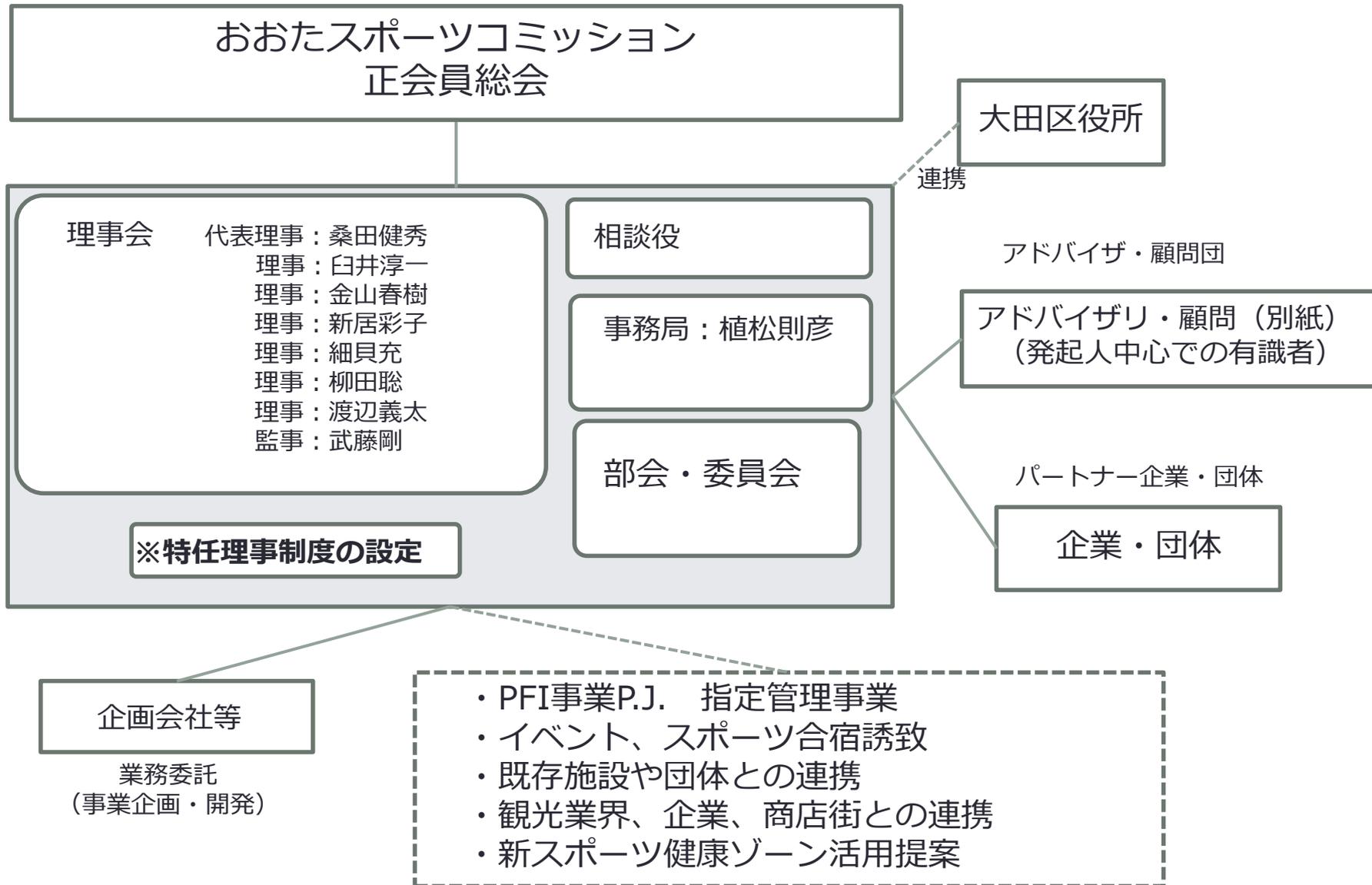
存在意義

- OSCは、スポーツのみならず、健康増進や街づくりを推進する全国のスポーツコミッションの実践事例をもとに、大田区にふさわしい具体的提案を関係機関に行います。
- OSCは、持続可能な経営基盤づくりのための財源確保と収益事業を民間企業等と協働で行うビジネスモデルを構築し、行政・企業等関係諸団体とともに地域スポーツが充実発展できる基盤を整備します。
- OSCは、スポーツを軸とした豊かな地域コミュニティの創造と区民の豊かで健康的な社会生活の構築に寄与します。

4. 組織概要

名 称	一般社団法人 おおたスポーツコミッション (OSC)
設 立 日	2017年12月4日 (月)
場 所	東京都大田区鵜の木二丁目八番四号 (株)金羊社内) 03-3750-2107 ホームページ : http://otasc.tokyo
理 事 (設 立 時)	代表理事 桑田健秀 理事 臼井淳一・金山春樹・新居彩子・細貝充・柳田聡・渡邊義太 監事 武藤剛
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ団体間や組織間における事業的相互支援事業・スポーツビジネスに関する調査・研究事業・スポーツに関係する諸団体との事業連携、提携、企画、販売事業・各種スポーツ教室やスポーツ大会・イベント等の企画・開催・運営事業・スポーツクラブ経営者および指導者等の研修事業・スポーツ指導者の派遣事業・スポーツ、文化施設の管理運営事業・スポーツ関連機器や商品、書籍等の販売事業・スポーツに関する代理店事業・スポーツ基金事業・前各号に掲げる事業に付随又は関連する事業

5. 体制



(一社)おおたスポーツコミッション発起人

東京商工会議所大田支部会長 ※	浅野 健	(株)金羊社代表取締役会長
セントラルスポーツ株式会社 営業本部アカデミー一部研究員	臼井 淳一	
2018年度東京JC大田区委員長	金山 春樹	ソニックス(株)常務取締役
大田区スポーツ審議会委員	桑田 健秀	NPO法人地域総合スポーツ 倶楽部・ピボットフット理事長
大田未来ビジョン委員会共同委員長 情報・サービス副分科会長	惟村 唯博	光写真印刷(株) 代表取締役社長
産経新聞東京本社特別記者論説委員	佐野 慎輔	
(一社)大田観光協会会長	田中 常雅	
学校法人片柳学園副理事長	千葉 茂	
学校法人上野塾東京実業高等学校校長	知念 義裕	
(公財)大田区体育協会理事長 ※	野川 春夫	順天堂大学特任教授
東京都立雪谷高校校長	原田 能成	
障がい者スポーツ指導者研究会理事長	森 相子	
(株)ジェイコム大田代表取締役社長	柳田 聡	
おおた地域スポーツクラブ ネットワーク会長	渡辺 義太	有限会社渡辺製作所 取締役

※は発起人代表

6. 主な事業内容

スポーツの有する社会的効果と経済的効果を追求し、スポーツを軸とした町づくりと地域の活性化に寄与するため、核となる地域スポーツクラブの充実・発展を図り、関連団体や施設を「繋ぐ」事業を推進する。

主な事業内容

1. 企画提案

- 地域スポーツの財産をより具体的に繋ぐ事業的实践例や事業化に伴う意見や要望などを集約し関係機関や団体・事業体などに企画提案を行う。
- 各種事業の企画・立案を行う。

2. サービス提供

- 地域スポーツに対して、企業との連携を通じて、事業的なサービスや商材の提供を行う。
- 地域スポーツが有する魅力的な情報や商材を発信する。
- 地域スポーツと企業との仲介やイベントの企画運営を行う。

3. イベント・講習会の開催

- 国内外の最新情報、行政や各種団体による委託事業や助成事業などの事業化情報に関する講演会等を開催し交流を行う。
- 国内外のセミナー、スポーツ合宿の誘致等をスポーツツーリズムとして行う。

7. 活動実績 ①

1. 2017年度

①第一回おおた障がい者運動会開催 主催

2. 2018年度

①大田区わんぱく相撲 後援

②おおたJC国際交流イベント 後援

③第二回大田区企業対抗運動会 共催

④大相撲大田区場所 後援

⑤イベント学会大田区会議 後援

⑥クロスミントンJapan Open世界大会大田区開催(スポーツツーリズム実践モデル)

⑦障がい者「ニコニコスポーツ教室」9回開催

⑧大田区プロスポーツチーム懇談会開催



7. 活動実績 ②

3. 2019年度

- ①「Ota Sports United Project」構想発表(大田区スポーツ推進審議会に提案)
- ②「第一回・第二回・第三回おおた健康ウイーク」イトーヨーカドー大森店と協働開催
- ③第13回全国スポーツクラブ会議大田区開催(大田区MICE第一号案件)
- ④日本第二回おおた障がい者運動会開催 主催
- ⑤エアロビック連盟主催「世界大会」に運営ボランティア派遣
- ⑥クロスミントンアジア選手権大会 大田区開催(コロナで中止)
- ⑦ダンス療法フェスティバル開催(元気高齢者倍増計画・認知症なんかこわくない)



4. 2020年度

①「Ota Sports United Project」構想提案

- ・ 大田区青少年センターゆいっつベースキャンププロジェクト (2021年度開始予定)
- ・ おおたスポーツアカデミープロジェクト (")
- ・ バスケットボール競技をモデルに小中高等学校部活動の地域受け皿づくり
- ・ 小中学校運動施設有効活用デジタル化プロジェクト
- ・ おおたホッケーレガシープロジェクト
- ・ OTA PRO Sports Promotion

②第14回全国スポーツクラブ会議オンライン開催

③おおたスポーツ医科歯科・栄養実践コミュニティプロジェクト企画

④クロスミントンJapan Winter Doubles Open



◎「おおたスポーツコミッション」OSCCとは
 スポーツが秘める可能性を最大限に引き出し、大田区に点在するスポーツ資源の機能を高め、
 官民挙げてそれらをコーディネート（繋げる・**リエゾン**させる）する**プラットフォーム**です



障がい者スポーツ：運動会・継続的な場の確保 / 高齢者：健康体操発表会・認知症予防 / 青少年：教室 / 中学部活動：指導支
 援・運動嫌いな生徒対策 / 小学生体力強化：スポーツ鬼ごっこ・わんぱく相撲 / 地域：スポーツごみ拾い / 3 on 3 / フリースローコンテスト

スポーツを「ベース」としてハードとソフトのインフラを使って、世代と地域を機能的・効果的にリエゾンします

「OTA SPORTS UNITED PROJECT」

～スポーツのある街・賑わいのある街大田～（案）

2019年12月12日

企画提案

公益財団法人大田区スポーツ協会理事

一般社団法人おおたスポーツコミッション理事長

桑田 健秀

理念

国際都市「TOKYO」の玄関口としての「大田区」を「OTA」として世界に発信。
区民70万人の地域コミュニティを核に、夢と希望と感動を共有する環境をつくる

背景

スポーツの持つ「力」を再認識、「夢」「希望」「感動」を共有共感

- ・ラグビーワールドカップ日本大会で経験した「ワンチーム」、世代・言語を超えた「人」の繋がり
- ・世界中に発信した日本のすばらしさ おもてなし
- ・2020オリパラでのアスリートの活躍に期待

目的

東京オリパラレガシーとして将来に残すべき遺産とは、

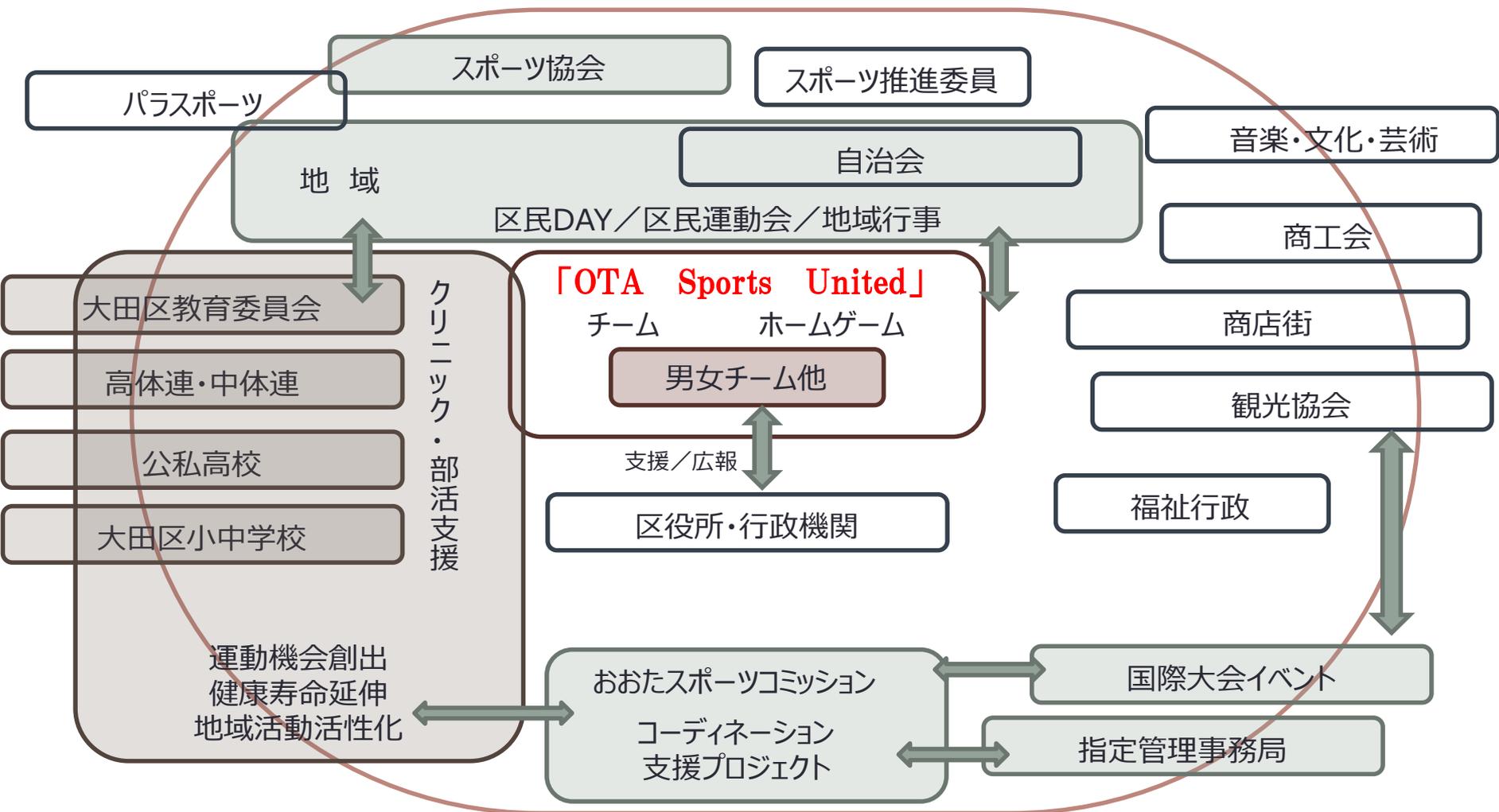
**スポーツを真ん中とした「人との繋がり」「感動の共有」「体験する喜び」を
シェアしコーディネートする仕組みを作り上げること**

方法

大田区内に点在するスポーツや運動資源の機能を高め、官民挙げてそれらを繋げる・リエゾンさせた区民間の繋がりを作り、音楽、アート、ファッションを含めた文化醸成の場を作る。

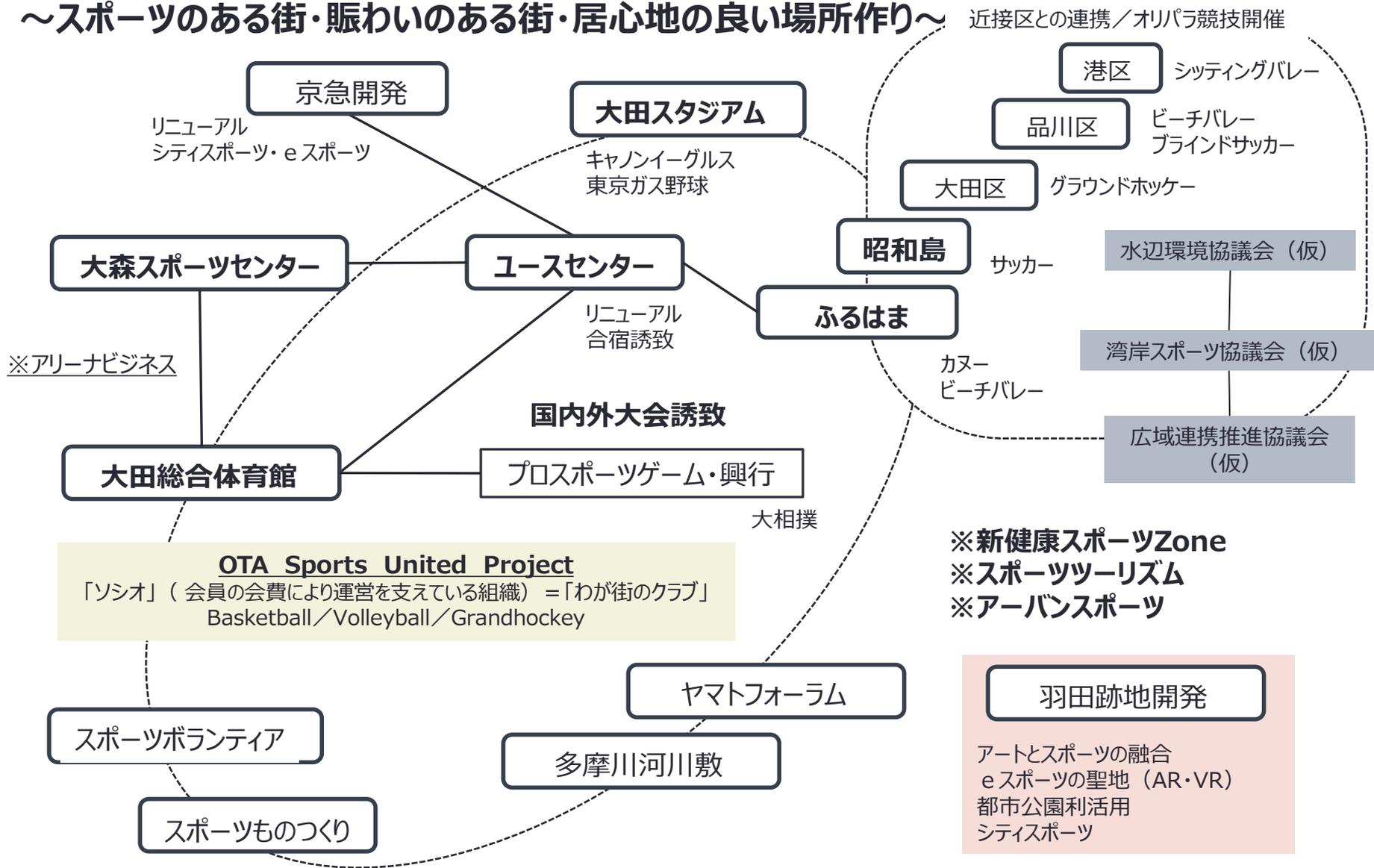
○「OTA Sports United」

- ・スポーツを区民共有財産へ
- ・区民球団を中核にスポーツブランディングを構築
- ・スポーツに関わる全ての人との繋がり、連携

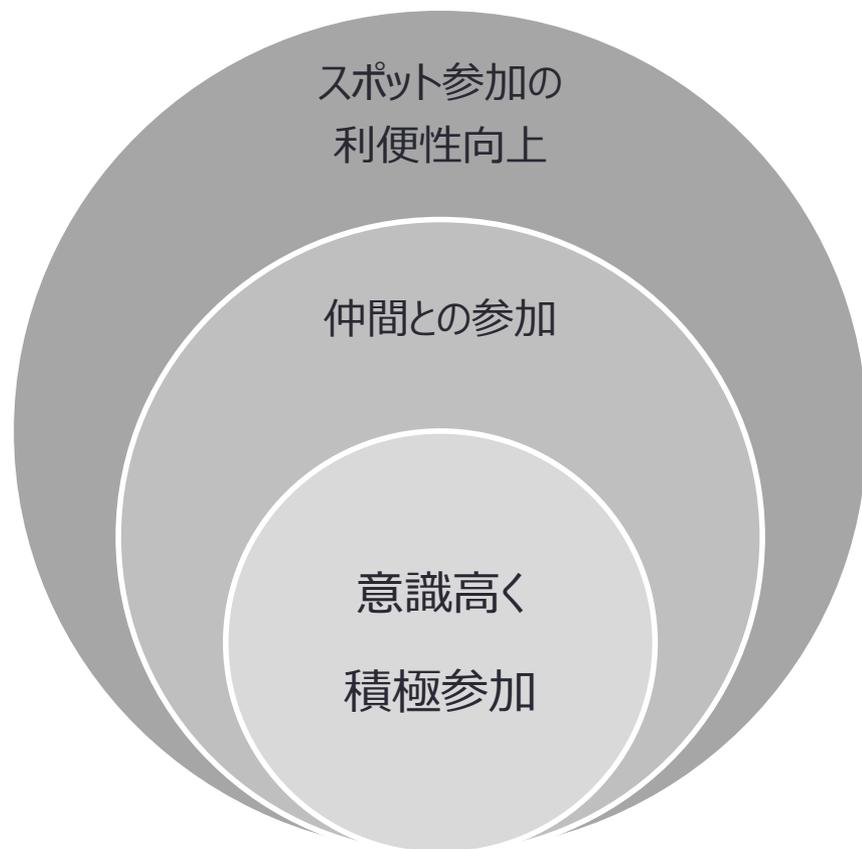


「OTA Sports United Project Map」

～スポーツのある街・賑わいのある街・居心地の良い場所作り～



東京2020オリパラレガシーへ持続可能な「しくみ作り」



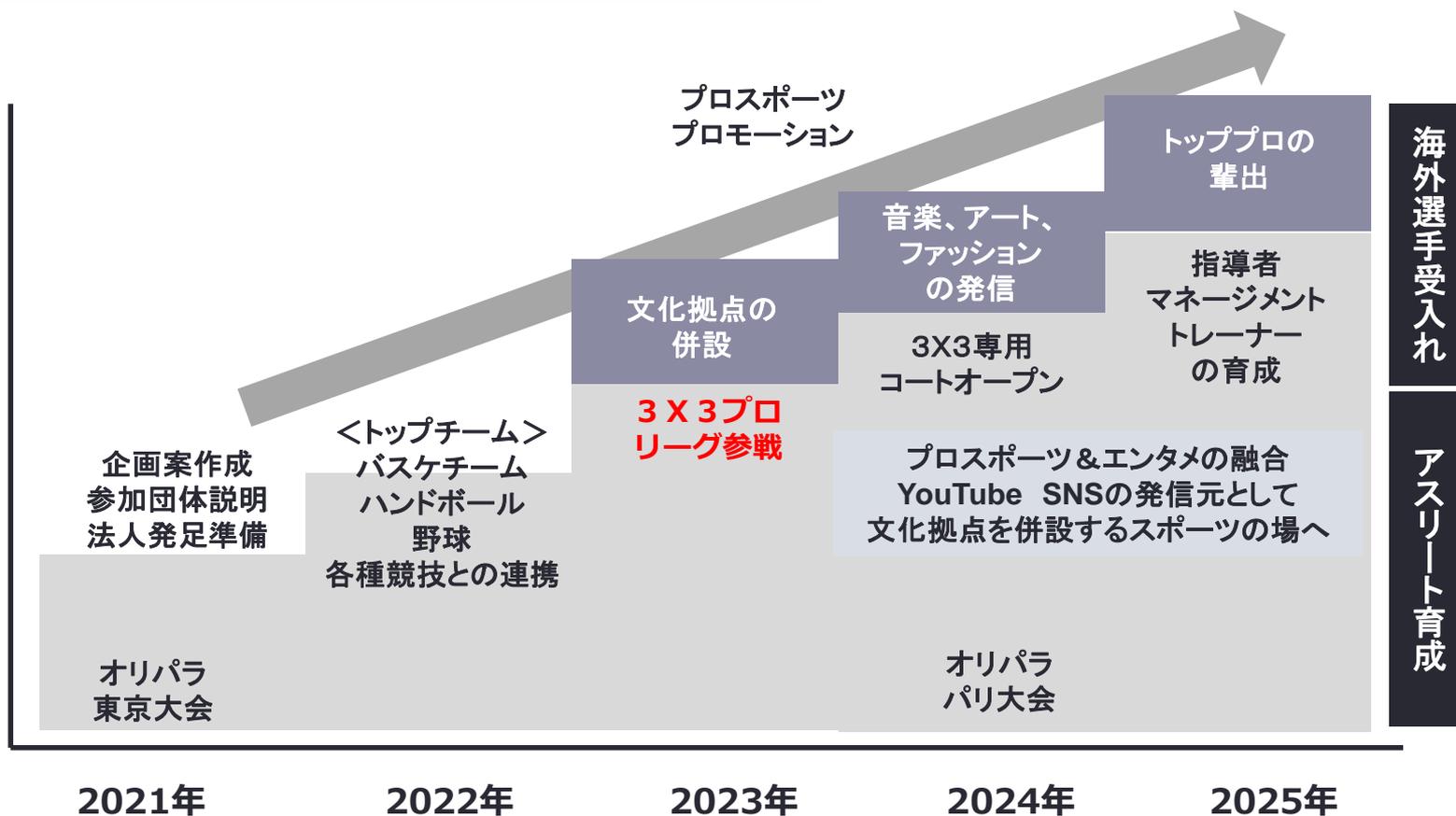
運動の習慣化、運動実施率の向上は、
「共通のコンテンツ・プログラム」を通して
「共通の体験」⇒「ユナイテッド参加」

**「スポーツ実施率の向上」とは
スポーツ・運動体験の利便性向上**

**スポーツ・運動に関わる全てのリソース
を繋げていくこと（施設利用、競技参
加、指導者、大会、教室実施など）
⇒スポーツリソースの「シェア」**

**⇒健康増進施策の推進
「はねびよん健康ポイント」の実践場**

将来ビジョン



<ビジョン> 大田区から「世界」へ

・アスリートのみならず、指導者、クラブマネージャー、トレーナー、メンタルトレーナーの領域のプロを「育成」いたします。

・3X3、プレイキン、パフォーマーの育成と2024パリオリパラやNBAへのアスリートの輩出を目指します。



アスリート・指導者・マネージャー



オリパラ
パリ大会

プロジェクト項目

- ① OTA PRO Sports Promotion
- ② おおたバスケットボールアカデミー
- ③ 大田ベースボールアカデミー
- ④ スポーツスペースボーダレスプロジェクト
- ⑤ 都立雪谷高校運動部活動地域応援提案
- ⑥ 都立蒲田高校ダンス部地域応援提案
- ⑦ ゆいっつベースキャンププロジェクト
- ⑧ 大田区ホッケー振興スキーム提案
- ⑨ 大田区スポーツ医科歯科栄養の実践コミュニティ提案
- ⑩ クロスミントン国際大会開催

「OTA PRO SPORTS PROMOTION」

～おおたプロスポーツ プロモーションのご提案～
プロバスケットボールチームでの先行実践

キャッチフレーズ

- ・「大田区からオリンピック選手を」 **ヴィッキーズ本橋選手に続け！！**
- ・ **大田区に「3×3」のチームを**
男女のバスケットップチームを有し、3X3のプロを備える唯一の都市へ
- ・ **大田区をバスケットボールの街に**

理念

東京の玄関口としての「大田区」を「OTA」として世界に発信。

プロバスケットボールチームを区民70万人の地域コミュニティの核に、夢と希望と感動を共有する環境をつくる。

目的

スポーツを軸とした**コミュニティの大樹**を育成します

「幹＝世代間交流」「枝葉＝感動の共有・体験する喜び」

大田区内に点在するスポーツ資源の機能を高め、官民挙げてそれらを繋げ、

区民の共有話題を作り、**音楽、アート、ファッション**を含めた文化醸成の場を

プロモーションします

サポート体制

主催：一般社団法人 おおたスポーツコミッション

おおたプロスポーツプロモーション

羽田ヴィッキーズ Wリーグ（バスケットボール女子日本リーグ）

アースフレンズ東京Z（B.LEAGUE）

協力：大田区、大田区教育委員会（小中学校・支援学校・障がい者施設）
（予定）大田区スポーツ協会、大田区バスケットボール連盟
大田区ミニバス連盟、大田区中体連、スポーツ推進委員



東京商工会議所大田支部、大田区観光協会、大田区商店街連合会

大田総合体育館、大森スポーツセンター、ヤマトフォーラム等

区内バスケットボールファミリーが結集しサポート！！



集客サポート

<Bリーグ、Wリーグ公式戦サポート（ホーム開催ゲーム）>

- ・ **ホームゲーム観戦ご招待**（区内全小中学校に案内）
「地域貢献」枠 50名/1ゲーム
「バスケットボール普及学校」枠 2～3校/1ゲーム
- ・ **プロモーション応援グッズ販売/PR**
レディースDAYグッズ、未就学児向けミニユニフォーム
町内会名、ロゴ掲載の応援Tシャツ 応援マフラータオル など
- ・ **ハーフタイムパフォーマンス（チア・ダンス等）**
地域団体の活用/チーム専属地元チームの編成
- ・ **前座試合、試合前の活用**
フリースロー大会（景品争奪）、DJコンテスト、
バスケット大好き芸人によるお笑いステージ など
- ・ **バスケットボールフェスタの活用**
3X3紹介、バスケットグッズ販売、即席のバスケット教室
- ・ **シーズン前の地域交流会**
- ・ **練習見学・練習試合の活用**



トップチーム選手、スタッフとの地域交流策

- ・ **出張バスケット授業「学校訪問、バスケット授業」**
トップチーム選手と指導者 技術、戦術、チームビルディング、体のケア方法
- ・ **ミニバス、中学部活訪問**
自主練習の方法、チームワーク、体験談、メンタルトレーニング
- ・ **地域イベント参加**
- ・ **区内小中学校生徒全員にトップチームのグッズ配布**
Tシャツ、サンバイザー、タオル、チームステッカーなど
- ・ **部活動受け皿**
部活動を退部した児童のフォローアップ
- ・ **首都圏発の男女プロバスケットチームによる「バスケットボール・アカデミー」**
バスケットボールを基軸にした、「技術／体力／語学」を指導
将来の国内海外留学を想定
- ・ **大田区観光大使** バスケットを通じた国内外でのアンバサダー

※今までの各チーム個別事業にオール大田として区内一般・全小中学校対象にプロモーション

国際都市「大田区」から世界へ向けて

- ・ **国際交流とジュニア育成**
アジア圏との選手コーチの交流
- ・ **ニューイヤカップ**
- ・ **アメリカでのバスケットボールキャンプへ参加**
米国バスケット留学、合同キャンプ、ホームステイ等
- ・ **3×3のチーム編成で裾野の広がり国際化を目指す**

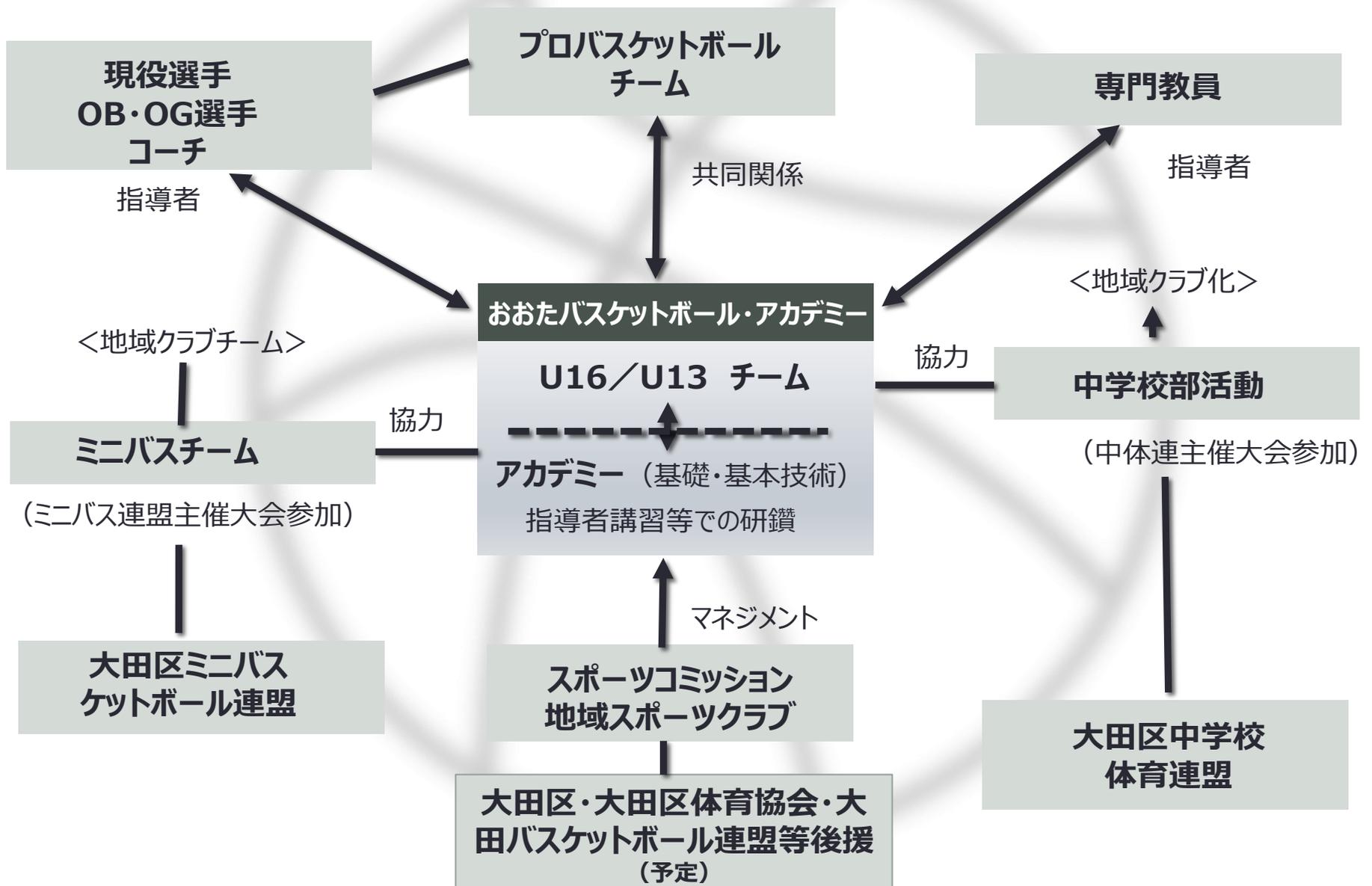
※大田区のバスケットボールファミリーとして日本のバスケットボール界に貢献



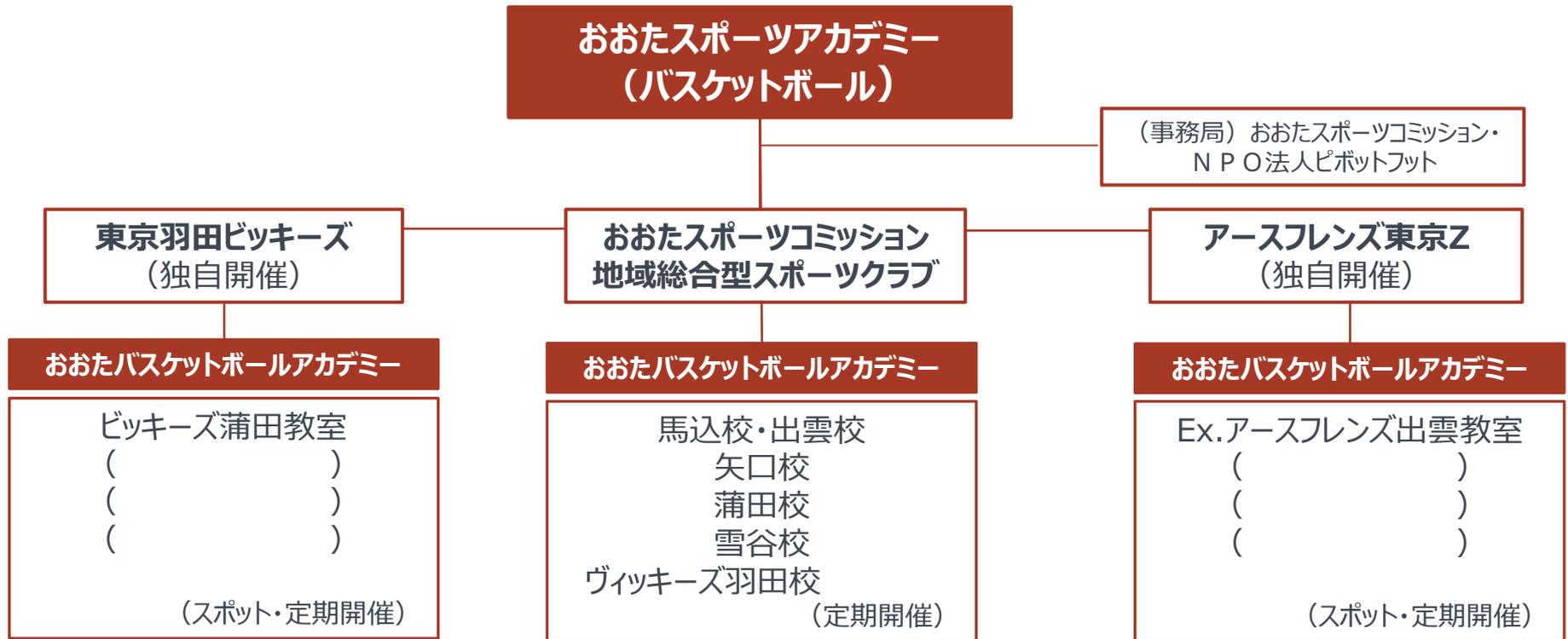
「おおたスポーツ・アカデミー」

「おおたバスケットボール・アカデミー」
のご提案

おおたバスケットボールアカデミーと大田区関係団体との相関図



「おおたスポーツユナイテッド」構想へとつながる、「区民」による「区民スポーツ」の確立



- 主催： (一社) oota Sports Commission・NPO法人ピボットフット
共催： oota地域スポーツネットワーク
後援： 大田区・大田区教育委員会・大田区体育協会
(予定) 大田区バスケットボール連盟
大田区中学校体育連盟バスケットボール専門部
大田区ミニバスケットボール連盟
協力： 東京羽田ビッキーズ
(予定) アースフレンズ東京Z
oota地域スポーツネットワーク 各クラブ
主管： (一社) oota Sports Commissionアカデミー事務局・NPO法人ピボットフット

[地域スポーツ振興組織]

大田ベースボールアカデミー
(OBA)

大田ベースボールアカデミー(OBA)の背景

教員の働き方改革

週末の部活指導を敬遠する教員
と
もっと部活指導したい教員の活躍の場
(副業を含めた収入増の可能性)

教員の部活指導レベル格差

競技経験者の高い専門性
と
競技未経験教員の非専門性
(技術成長したい子供のレベル低下)

学校を基軸にした 地域ブランディング

学生と地域住民の交流が減少
と
地域ブランディングの実現可能性

グラウンド施設の有効活用

グラウンドが取れない民間チーム
と
夜間や週末に空きがある学校グラウンド
(開放の可能性)

大田ベースボールアカデミー(OBA)の役割

ヒト(教員/外部専門家)、場所、ノウハウのシェアリングによって、
継続的な地域課題解決とまちづくりを担う

シニア

- シニアリーグを発足させ、生涯スポーツとして健康増進、コミュニティを活性化
- 平日午前中の空きグラウンドや施設を有効活用

社会人

- 学生がグラウンドを使っていない空き時間を開放およびオンライン予約システム
- トップチーム(プロ球団を目指す大田ロケッツ)による競技レベル向上と地域貢献活動

高校生

- 教員の代わりに指導する外部専門家の派遣(教員の働き方改革)
- 指導/増収に意欲的な教員は土日に小中学生向けの技術向上アカデミーへ指導派遣(副業)

中学生

- 教員の代わりに指導する外部専門家の派遣(教員の働き方改革)
- 指導/増収に意欲的な教員は土日に小中学生向けの技術向上アカデミーへ指導派遣(副業)

小学生

- 平日下校後の技術アップアカデミー(クラブチーム等は平日の活動が難しい)を開催
- 民間への学校施設開放および管理

未就学児

- スポーツ普及の受け皿としてキッズアカデミー発足
- 子育て支援、運動能力向上支援の機会を創出

大田ベースボールアカデミー(OBA)の運営

おおたスポーツコミッション会員の硬式野球チーム「大田ロケッツ」の選手および関係者が大田ベースボールアカデミーを立上げ、運営 *ロケッツは新型コロナウイルスにより活動開始を延期中



- ① 空き施設・グラウンドの有効活用
- ② 中・高生向けに指導サポートする技術向上アカデミー運営
- ③ 目的やレベル指導者派遣(専門性ある教員/外部専門家)
- ④ ジュニアアカデミー開校による運動能力向上とスポーツ普及
- ⑤ シニアリーグ開始による健康増進、コミュニティ活性化
- ⑥ 地域ブランディング、交流イベントの開催

(例) 都立高校への指導者派遣候補者

- ① 指導者として甲子園2度出場した元私立高校監督
- ② 慶応義塾大学OBで高校野球指導歴20年の元私立高校監督
- ③ その他、高校野球指導経験がある候補者3名

都立高校を基軸にした
アカデミー×エリアブラン
ディングに着手

2021年4月2日

2021年度スポーツスペース・ボードレスプロジェクト 委託要項

総合型地域スポーツクラブによる学校体育施設の、一般開放や社会体育施設として、地域スポーツの場としての有効活用推進の施策

(一社) おおたスポーツコミッション

NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット



地域スポーツクラブの果たすべき役割

WITHコロナ時代の働き方と生活習慣の変化

- ・テレワーク、在宅勤務、オンライン会議、時差出勤の定着
- ・プライベートの外出でも「密」を避ける流れの中で少人数、個人化がすすむ

<短期的>

- ・人々の生活の中で、人との接点を持たずにできる運動(筋トレやランニング等)が活発になる

<中長期的>

- ・加えて、効果的/効率的な健康管理・運動管理への意識が高まる
- ・酸素飽和度、心電、心拍などのデータをモニタリングし、運動のアドバイスに役立てるアプリ、スマートウォッチの普及
- ・リモートワークで深刻化する軽度の健康課題を、自宅で解決するための運動器具の普及
- ・YouTubeを代表とする動画によるエクササイズの普及
- ・要介護者など、従来の健康問題が更に悪化してしまう可能性のある層に対しての運動指導、予防指導の必要



従来の人の移動の変化

- ・居住と働き場所の近接 = 平日の日中人口の変化 新たな運動ニーズの発生
- ・地域コミュニティの重要性を再認識⇒地域内運動施設の使用率UP 場所の取り合い



「運動場所の確保」と**地域の体育施設「資産」の有効活用**する必要性が高まっている

- ・地域の活動内容を把握し、**地域コミュニティを知る「管理者」の必要性が増してくる**
- ・効率的に「運動の場」の提供と**公平性の担保が重要となる**
- ・小中学校の運動施設を学校と地域でバランスの良い有効活用が今後の部活動の地域化を含め望まれる

⇒**利便性の良い、システム・アプリの導入でペーパーレスでの事務効率化と管理者の確保が必要となる**

都立雪谷高校 運動部活動 地域からの応援提案

一般社団法人 おおたスポーツコミッション
NPO法人地域総合スポーツ倶楽部ピボットフット
雪谷高校学校運営協議会委員 桑田健秀

ご提案 について

「都立雪谷高校運動部活動 応援提案」

学校の教育力とスポーツ指導者の持つコーチ力と
地域で

のサポート力が協働し、さらには先生方の働き方改
革の

一環を地域が応援するため

以下の4点を柱としたご提案を申し上げます

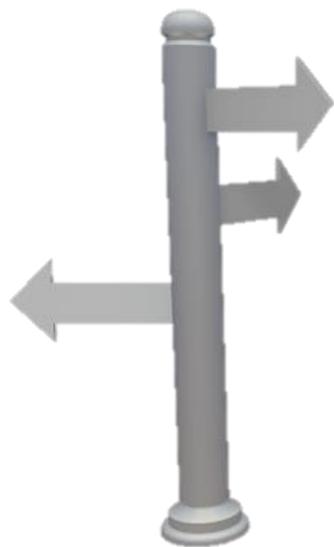
I. 部活動顧問と連携して「生徒を支える」

- ① ガイドライン、コンプライアンス、指導者について
- ② 生徒への「部活動相談窓口」を設置

II. 「地域と共に愛される雪谷高校」

- ③ 部活動を軸にした学校ブランディング
- ④ イメージ向上、入学希望者増加推進

※都立高校では初めての試み



応援組織 について

「都立雪谷高校運動部活動 応援組織」を地域に創設します
顧問・学校ともよく連携した運営を行う

(仮称) ex.NPO等公益法人 雪谷Athletic Association

企画運営

ブランディング企画：

イメージした具体的な事業に見える形に整理し実行する
活動資金の調達と部活動への支援

管 理

スケジュール管理：

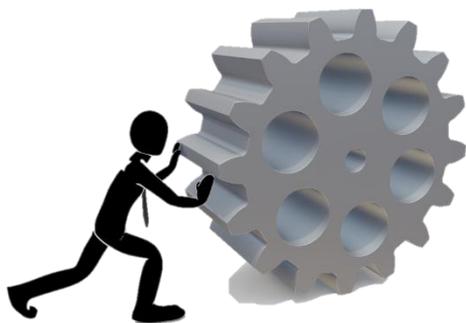
具体的な部活動の日程調整

指導者派遣、指導者教育：

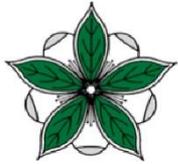
適切な指導員のマッチングと指導者の管理、教育

部活動相談窓口：

生徒、部員の各種相談窓口



※部活動は今迄通りの活動で活性化を目指し、部活動で困ったことの
相談窓口として対応する



都立蒲田高校 ダンス部地域からの応援提案

一般社団法人 おおたスポーツコミッション
NPO法人地域総合スポーツ倶楽部・ピボットフット
蒲田高校学校運営協議会委員 桑田健秀

**地域、
OB・OG
と共に**

- **学校ブランディング**

蒲田高校の活動支援のためイメージ統一をはかります
ダンスをキーワードに統一感あるものにします
(シンボルマークデザイン等は生徒から公募採用)

- **イメージ向上、入学希望者増加推進**

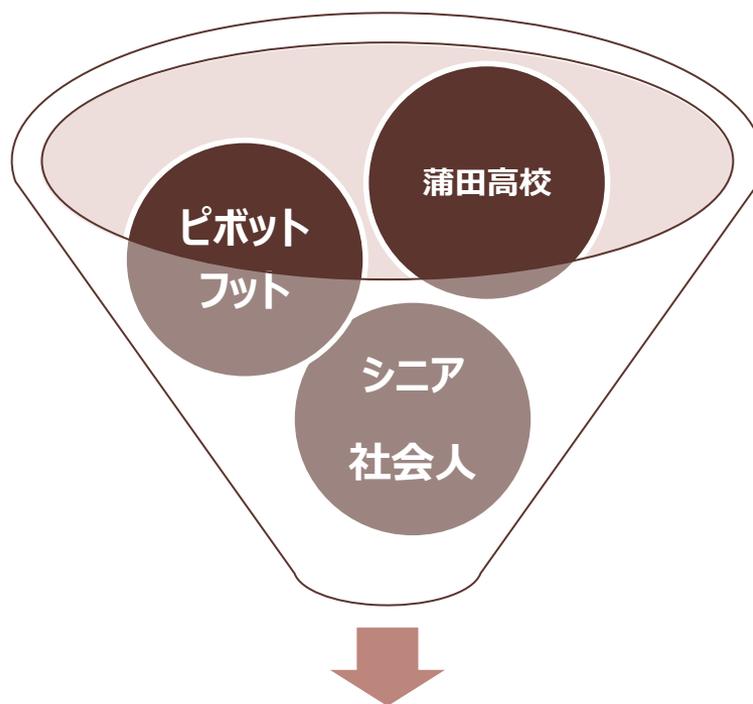
対外的にメディアに取り上げられる機会も増え
イメージ向上に効果的であり、統一感のあるスタイルは
好印象をあたえ、入学希望者の増加に貢献します

地域に愛され、世代を超えて「ファン」を作ります。

地元商店街、自治会、町内会の皆様と共に「応援」できる環境を整備します

大田区 との関係

「OTA Sports United Project」との連携 ～スポーツのある街・賑わいのある街大田～



— 事例 —
第一回蒲田ダンスカーニバル

OTA-Unitedダンス 蒲田ファミリーズ

蒲田高校ダンス部 — 高校
蒲田中学ダンス部 — 中学
ピボットフットリズムダンス — 小中学生

年間 1 ～ 2 回の地域交流会等の開催

ダンスをテーマとした地域コミュニティづくり



2020年11月3日

ゆいっつベースキャンプ プロジェクト

1. 目的と熱い理念

「青少年中心に大田区民」へコロナとの新たな生活スタイル「導入」への先進提案

「ゆいっつ」大田区青少年交流センターの役割と位置づけ(スポーツ・文化の拠点)

⇒多様な若者が「やりたいこと(自分)」を見つけ、主体的に取り組むことを応援する場の提供

(ベースキャンプ企画、産学交流会、HANEDA×PIO連携、中高生応援ボランティア制度)

⇒働く場所や時間の変化に対応する民間企業、商工会議所等と連携した場の提供

(企業研修会の開催、異業種交流会、スポーツ体験研修会、異文化交流会)

⇒地域総合型スポーツクラブ、スポーツコミッションを通じた、地域間交流の場の提供

(スポーツ体験会、スポーツツーリズム、各種スポーツ教室)

多面交流により「点でとらえる」から「面でとらえる」へ、新スポーツ健康ゾーンおよびOTA Sports United Projectの中核拠点として「ゆいっつ」大田区青少年交流センターを位置づける

2. 構想図概略



- 不登校支援児童生徒の支援について（文科省）
- 不登校児童生徒に対する支援推進事業（令和2年度新規）
- 子ども・若者育成支援推進法
- おおた子どもの生活応援プラン（R111月大田区）柱3居場所・包摂
- 大田区青少年健全育成のための行動計画（第7次）策定概要（案）

大田区でのホッケー振興スキーム提案

2020東京五輪正式種目



する

- 学校・公共施設
- 地域スポーツクラブ
- スポーツ推進委員
- マイホッケープラス



みる

- 日本ホッケー協会
- 地元チーム結成
- おおたケーブル
- 国内外大会誘致



ささえる

- 大田区・品川区
- 地域スポーツクラブ
- 多文化共生
- 協会連盟の結成



つくる

- 中小企業
- 産業振興
- 観光協会
- 用品用具製造

おおたスポーツコミッション

ホッケーによるおおたスポーツレガシーの目標

大田区スポーツ健康ゾーン確立
ホッケー教室・試合定期開催

体験会・イベント・教室多
数開催
ホッケー日本戦満席!!
おおたホッケーチーム

2020年
東京五輪

2024年
パリ五輪

スポーツ観戦文化定着
ホッケーの聖地

2028年ロ
ス五輪

2032年
??五輪

大田区から日本代
表選手輩出!
応援イベント開催

大田区スポーツ医科歯科栄養の 実践コミュニティ（仮）
